

令和5年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京極幼稚園）

教育目標

遊びを楽しみ、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	<p>本園は、落ち着いた家庭環境の下、明るく安定して過ごしている子どもが多いが、一方で、友達や家庭環境に課題を抱えた子どもも複数在籍している。また、年長児11名、年少児5名という小規模の幼稚園であるため、同じクラスの友達と互いを理解し合い、仲よく一緒に遊ぼうとする姿が見られる反面、人とのかかわりの多様性や深まりには難しさを感じてきた。そこで、本年度は、未就園3歳児を巻き込んだ集団形成や異年齢のかかわりが生まれる保育の模索、また、地域や小学校との交流の機会を大切にすることに重点をおき、取り組んできた。</p> <p>今年度、人とのかかわりを楽しみ、主体的に遊ぶ姿、豊かな感性の育ちなど、大きな成長を感じるが、思うようにできなかつたり友達とのトラブルになつたりしそうな場面では、まだまだ大人を頼りにしがちな面が見られ、「たくましさ」という点では課題が残る。</p> <p>次年度は、子どもたちの良さを生かしつつ、物事に対してしっかりと向き合う姿の育成をめざしたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<p>普段の姿を見る機会が中々ないが、運動会や生活発表会などを通して、子どもたちの幼稚園での普段の生活ぶりを感じることができる。子どもたちがのびのび、生き生きと活動している姿、そして、先生方が子どもたちの個性をそのまま受け止めているのだということが伝わってくる。運動会や生活発表会では、子どもたちの姿を見守る保護者の温かい雰囲気が感じられた。</p> <p>インスタグラムを始めたことはとても良い。幼稚園での子どもたちの様子が感じられる写真、「大人にとっては何気ない出来事でも子どもにとって大切な経験であること」や「幼稚園ではこのようなコンセプトでこういう遊びをしているのだ」ということ、「子どものこの姿をどんな風にとらえて大切にしているか」など、情報と共に幼稚園の教育の発信や思いを伝えていけると良いと思う。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年9月19日	京極幼稚園学校運営協議会
最終評価	令和6年3月12日	京極幼稚園学校運営協議会

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・クラス、異年齢、未就園児、保幼小など、様々な子どもとの関わりの中で、具体的な子どもの姿を記録し、『子ども同士の対話が生まれる環境』に着目し、教員同士での日々の反省評価から、具体的なよりよい保育の手立てを考える。
- ・幼児が主体的に夢中になって遊びこめる生活や活動、行事について検討、実践をし、次の取組につなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、園内研修等で子どもの姿の変容について話し合った。
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容について協議を行った。
- ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）
 - ① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して過ごしている。 A94% B6% C0% D0%
 - ② 子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている。 A88% B12% C0% D0%
 - ③ 子どもは、先生や友達とかかわる中で、嬉しさや悲しさ、悔しさなど、様々な感情を味わっている。 A41% B59% C0% D0%
 - ④ 子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞こうとしたりしている。 A23% B65% C12% D0%
 - ⑤ 子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる。 A70% B30% C0% D0%
 - ⑥ 子どもは、手洗いやうがいなどの生活習慣、身の回りの始末を自分でしようとしている。 A29% B71% C0% D0%

自己評価

分析（成果と課題）

エピソードや研究保育を通して、子どもの姿の変容を見取り、個々のめあてや集団の育ちについて学びあうことができた。

アンケートにおいては、すべての項目についてA・B評価が多く、特に、子どもが安心して幼稚園で過ごし、日々の生活を楽しんでいるという項目において、9割がAであるという高評価であった。幼稚園の取組、子どもたちの育ちについての理解がなされていることが伺える。自由記述においても、園での教育活動にご理解・ご協力をいただいている表記が多く見られた。

生活習慣においては、他の項目と違い、B評価が多く見られ、子どもにとって必要感を感じられる取組となっているかどうか改めて見直す必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

昨年度、前期と後期では、A評価の割合が減り、B評価の割合が高くなる傾向が見られた。前期の評価に甘んじることなく、引き続き、取組を進めていきたい。

また、生活習慣の確立については、日々の保育での個別の援助や保健指導などを通して、子ども自身が必要感をもって取り組めるようにするとともに、家庭と園との連携を密にしながら、個々の子どもを支えていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容を見取る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る。 ・アンケート
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に通うことに対して、楽しく安心して過ごしているという結果が圧倒的なので、この調子で保育を進めていくと良い。 ・意見が通らないときにすぐに行動に出てしまう子どももいると思うが、そのような子どもに対してのかかわりを大切にしてほしいと思う。 ・自分に、相手に向き合うことを大切に保育を進めているということがよくわかる。 ・相手に「いやだ」と言えることも大切だと思うので、仲よく遊ぶだけではないということの大切さを保護者にも理解できるようにしていくと良いと思う。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿の変容について話し合った。 ・研究保育を通して、子どもの姿の変容について協議を行った。 ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D） <p>① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して自分を出せている。A62.5% B37.5% C0% D0%</p> <p>② 子どもは、自分で遊びを見つけ、楽しんでいる。A62.5% B37.5% C0% D0%</p> <p>③ 子どもは、先生や友達とかかわる中で、嬉しさや悲しさ、悔しさなど、様々な感情を味わっている。A75% B25% C0% D0%</p> <p>④ 子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞いたりしている。A31.3% B68.8% C0% D0%</p> <p>⑤ 子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる。A62.5% B37.5% C0% D0%</p> <p>⑥ 子どもは、手洗いやうがいなどの生活習慣、身の回りの始末を自分でしようとしている。A43.8% B50% C6.2% D0%</p>
--	--

自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>今年度、クラス、異年齢、未就園児、保幼小など、様々な子ども同士のかかわりを大切に、『子ども同士の対話が生まれる環境』に着目して研究を進めてきた。日常の保育の中でも、子ども同士のかかわりの変容について週案に意識して記載したり、降園時の話や園だよりに積極的に保護者に伝えたりすることで、保育者の意識が高まり、保育者自身の学びにつながっている。</p> <p>アンケートの結果からは、生活習慣について 1 名 C 評価があるものの、それ以外はすべて A または B 評価であり、高い評価を得ている。</p>
--------------	--

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>異年齢を含めた友達関係の広がりが見られることや、保護者アンケートで高評価を得ていることは実績としてとらえられるが、やはり相手の話をしっかりと聞く場面での個人差が大きく見られることや友達とのコミュニケーションがうまくいかない場面での葛藤体験の不十分さが課題として残る。来年度も継続して、個を支える保育だけではなく、集団を育てることにも視点をおいた保育を考えていきたい。</p>
--	---

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期と後期の比較をとるのであれば、同じ文言でのアンケートにしてはどうか。 ・運動会でも感じたのだが、生活発表会の劇遊びで役になりきっている様子や、自分の役割をしっかりやりきろうとしている姿、特に年長児の姿に成長を感じた。また、2人ずつでお辞儀をして退場するフィナーレも良かった。
-----------------------------	--

(2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続について

具体的な取組

- ・保幼小で、交流についての年間計画やチーム分けを検討、作成する。交流前後の打合せ時には、子ども同士の思い、子どもの姿の読み取りやねらいなどについての共通理解を大切にする。
- ・互いの保育や授業を参観する機会や研究の資料等の共有により、接続に必要な環境や援助を整理し、架け橋期のカリキュラムを作成する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。
- ・小学校と連携し、架け橋期のカリキュラムの作成、検討状況。
- ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・年間交流計画を作成済。
- ・京極小学校、鶴山保育所との保育、授業を通しての交流4回とその事前・事後研修実施、授業参観1回実施、保育参観1回来園、合同研修会2回実施。
- ・京極小学校と連携し、架け橋期のカリキュラム作成中。
- ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）は後期実施予定。
- ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）

⑨ 幼稚園は保育所・小学校・中学校との連携を大切にしている。A65% B35% C0% D0%

自己評価

分析（成果と課題）

年間計画を立てて交流保育を行うことについては、事前・事後研修の実施も含めて、忙しい時間の中でもしっかりと実施することができている。また、架け橋期のカリキュラムについても、何度も検討・協議の繰り返しながら作成中である。

アンケート結果から、コロナ禍で縮小しながらも続けてきた保幼小交流を今年度、さらに充実させてきていることが理解されていることが伺える。

分析を踏まえた取組の改善

京極小学校・鶴山保育所との連携・接続に関しては、後期も継続して取組を進めていきたい。後期には、室町小学校との交流も計画、また、KKP（鳥丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）の取組を通して、各保幼小中の保育・授業等の参観の呼びかけも始めたので、機会をとらえて、互いの校種間の理解を深める機会としたい。

架け橋期のカリキュラムについては、現在、京極小学校と共に作成中であり、年度の終わりには、京極幼小の4歳児から2年生にかけてのカリキュラムとして形づくる。その後検討し、来年度の始めには、鶴山保育所や他の近隣の小学校にも開示していきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流。作品展交流や授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。
- ・小学校と連携し、架け橋期のカリキュラムの作成、検討状況。
- ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。

	・アンケート
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で実施できなかった給食交流など、今後また実施できるようになると良い。学校のルールなど入学前に知ることができると安心感につながるので、そのような交流の機会もぜひ大切にしていってほしい。 ・幼小の連携が年長児がスムーズに進学できることにつながるので、今後も充実させていってほしい。 ・近隣の小学校に入学する際、鶴山保育所の子どもたちと互いに顔を知っている友達がいることで心強いと思う。保幼のみの交流や連携も、幼小と同様に重きをおいて活動できると良い。 ・小学校には京極幼稚園のみならず、たくさんの就学前施設から入学してくるという現状を考えると、架け橋期のカリキュラムの作成・実施については今後もしっかりと検討していく必要があると感じる。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流 5 回。小学校運動会や授業参観への複数回参加。京極小学校研究発表に参加。 ・小学校と連携し、架け橋期のカリキュラムの作成、検討中。 ・就学支援シートの提出。就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）を 3 月実施予定。 ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D） <p>⑨ 幼稚園は保育所・小学校・中学校とのつながりを大切にしている。A87.5% B12.5% C0% D0%</p>

自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>アンケートでも、前期より A 評価が増え、9 割近くの方が大変そう思うと評価しているように、京極小学校、室町小学校との交流保育の実施やその時の様子、子どもの育ちなどを発信していくことで、連携の意味や大切さを理解してもらえるようになった。</p> <p>実際、交流やその事前・事後の研修、保育・授業の参観を通して、教員同士のつながりも実感できるようになってきている。また、架け橋期のカリキュラムについても、何度も意見交換しながら、作成を進めている。</p> <p>鶴山保育所とは、互いの作品展にそれぞれ全教員が参加し、作品を通して学び合う機会を得た。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今年度、かなり充実した保幼小連携の取組を進めることができたので、来年度以降も、継続して連携を進めていきたい。毎年のことではあるが、保幼小の教員の異動により連携をより進めることができたり、逆に、滞てしまったりすることがあるので、組織として継続的に充実した取組を進めていくことが課題である。</p>
--------------	---

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も交流を重ねることで名前を覚えてもらえるので、入学前の不安も少なくなり、小学校にもスムーズに慣れていくことができる。お互いの顔や名前が覚えられるよう繰り返し交流を行うことは有意義である。 ・小学生側も幼稚園の子どもたちが遊びに来てくれることを楽しみにしている。子ども（小学生）から交流の話を聞くと、わが子の年上としての自覚も見られて、親としては嬉しい。 ・小学校に幼稚園との交流の写真や記事が掲示してあり、小学校の保護者も楽しみに見ている。
-----------------------------	--

- ・給食を食べる経験ができる幼小交流をぜひ復活させてほしい。
- ・小学校の授業参観に幼稚園の先生がよく来てくれているのは、子どもも喜んでおり、親としても嬉しく感じている。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組

- ・一人一人の子どもが安心して参加できるように、教員同士の情報共有を確実かつ丁寧にし、必要に応じて教職員全体で子どもの安全を確保しながら見守るようにする。
- ・異年齢、少人数だからこそできる活動や、語学ボランティアによる読み聞かせや、講師によるサッカーエクササイズやつくって遊ぶ活動など、特別プログラムも計画する。
- ・保護者のニーズに沿いつつ、子どもにとってよりよいかかわりを共に考えていく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正（未就園3歳児の預かり保育を中心に）。
- ・預かり保育の参加人数。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返りの実施継続中。
- ・預かり保育の参加のべ人数（4月 68名 5月 85名 6月 118名 7月 129名 8月 73名 9月 132名）
- ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）利用者のみ回答
子どもは、おひさま広場（預かり保育）を楽しんでいる。A71% B23% C6% D0%

自己評価

分析（成果と課題）

新2号認定を受けている家庭もあるが、預かり保育を常時利用する必要がある家庭は少数であり、子どもの様子や気持ちに合わせて利用を考える家庭が多い。そのような現状であっても利用率は高く、預かり保育を子ども自身が楽しんでいるととらえている保護者が多い。特に、サッカーや「つくってあそぼう」「いろいろな国の言葉で遊ぼう」など、イベントへの参加率は大変高く楽しんでいた。

今年度から始まった、未就園3歳児の預かり保育も、子どもの様子に合わせて利用している様子が見られる。

分析を踏まえた取組の改善

保護者のニーズ、子どもの興味等から、大きな改善の必要はないと思われる。今後も、子どもの興味関心にあった活動を工夫し、3歳児を含めた異年齢のかかわりがより深まるような取組を継続していく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。
- ・預かり保育の参加人数。
- ・アンケート

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、魅力のあるカリキュラムを体験させていくと良い。 ・通常の預かり保育においても、担当の教員が遊びにかかわっていくと良いと思う。 ・未就園3歳児の預かり保育の利用の取組がとても良いと思うので、ホームページ等での発信強化を促していくと良い。

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの事後の振り返りの実施継続中。 ・預かり保育の参加のべ人数（10月 147名 11月 141名 12月 117名 1月 135名 2月 122名） ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD） <p>⑦ 子どもは、おひさま広場（預かり保育）を楽しんでいる。 A50% B50% C0% D0%</p>
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

後期も利用率は高く、前期よりも大幅に増加している。全体的に、5歳児、3歳児の利用率が高く、4歳児はイベント時以外の利用率が低く、学年によって利用状況が異なっている。16時以降に利用する子どもは決まっており、その中で年齢に関わりなく関係が深まっている様子も見られる。

アンケートの結果からも、子ども・保護者が安心して預かり保育を利用している様子が見られる。

分析を踏まえた取組の改善

預かり保育時のイベントは楽しみにしている子どもも多く、来年度も継続して実施していくとともに、日常的な遊びについても充実を図る。3歳児の預かり保育の利用率が後半、大変伸びているので、3歳児が楽しめる遊びについても検討ていきたい。

学校関係者による意見・支援策

- ・いろいろな分野のゲストティーチャーを招いてやってみてはどうか。
- ・必要な時に必要な量を提供できることが良いと思う。
- ・幼稚園にも18時までの預かりがあることの意義は大きい。保育園（保育所）には一定の基準があるが、幼稚園であれば誰でも入りやすく、しかも18時まで利用できるということで、今年度のように保育所からの入園もあると思う。

（4）子育ての支援に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・0～3歳の未就園の親子のクラス（ひよこ組）、2歳児親子（ぶらうさぎ組）が3歳児クラスの子どもと関わって遊ぶ機会を定期的にもつ。 ・未就園3歳児の預かり保育を安全にかつ安心して利用できる計画を作成する。 ・在園児の行事等に参加したり、在園児保護者との交流で子育てなどについて話したりする機会をもち、園の保育の雰囲気や良さを感じてもらえるようにする。 ・取組の様子をホームページ、チラシ、広報誌等でアピールしたり、小規模保育施設に働きかけたりすることで、より多くの親子に参加してもらえるようにし、入園者増加につなげる。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。

- ・未就園3歳児の預かり保育利用人数。

中間評価

各種指標結果

- ・ほっこり子育てひろば2回実施。
- ・未就園児保育の利用者（登録者）数。3歳児うさぎ組5名、2歳児ぶちうさぎ組5名、0～3歳児ひよこ組15名（ぶちうさぎ組6名含む）
- ・未就園3歳児の預かり保育参加のべ人数（6月14名7月17名8月10名9月21名）

自己評価

分析（成果と課題）

うさぎ組は、欠席もほとんどなく、安定して通園している。預かり保育も、子どもの様子を見ながら利用していて、在園児の預かり保育時間までの弁当時など、3歳児の担当者が継続して預かり保育を受け持つことで安心して預けることができる、兄弟で降園時刻を合わせられて便利だとの声がある。ぶちうさぎ組は、6名の登録があったが、転勤のため7月から5名となった。比較的安定して参加している。今年度は、ひよこ組の登録者が少なく、日常的には3名程度であることが多い。

分析を踏まえた取組の改善

3歳児・2歳児の利用は、昨年度とあまり差は見られないが、0～3歳児のひよこ組の登録者は大変少ない状況である。昨年度はイベント時だけ参加するひよこ組が目立ったが、今年度はそのような参加の仕方は見られない。保護者に聞くと、コロナ禍が落ち着き、周りの保育施設等での受け入れが緩和されたり、イベントが多く実施されたりしていることで、遊びに行ける場が増えているとのことであった。保護者の方の力を借りて、各施設やイベント時など、広報活動を進めている。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。
- ・未就園3歳児の預かり保育利用人数。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・家庭ではできない遊びやピアノをつかった歌などの内容や、魅力的な担当者など、保護者の求めるものを考えていくと良い。
- ・ポスターがわかりやすくなっていたので、今後、効果が出ることを期待したい。
- ・地域のお祭りやイベントの機会を活用して、パンフレットやチラシなどを配布したり、園児が参加する際に教員がアピールしたりすると良い。
- ・今後の入園の見通しが心配であるが、この地域だけでなく、全国的にこのような傾向が見られるので難しさを感じる。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・ほっこり子育てひろば2回実施。
- ・未就園児保育の利用者（登録者）数。3歳児うさぎ組6名、2歳児ぶちうさぎ組5名、0～3歳児ひよこ組17名（ぶちうさぎ組5名含む）
- ・未就園3歳児の預かり保育参加のべ人数（10月19名11月15名12月22名1月29名2月29名）

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>本園は少人数の園であるため、ほっこり子育てひろばの実施回数を多くすることは難しいが、年度当初に実施日程を知らせて申し込みをしてもらうことで、全保護者が参加することができた。毎回の人数も多くない為、和やかな雰囲気の中、活発な話し合いの場となっている。</p> <p>3歳児うさぎ組の子どもたちは、在園児と一緒に遊ぶ機会も多く、安定してのびのびと過ごしている。預かり保育の利用も、後半、増えている。</p> <p>3年保育園（他園）への入園が決まると、2歳児ぶちうさぎ組の利用は減った。0～3歳児ひよこ組の登録は伸び悩み、利用人数も減少傾向にある。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>ほっこり子育てひろばについては、保護者が気軽に話ができる場として今後も大切にしていきたい。</p> <p>未就園児クラスについては、来年度の登録もあまり期待できない状況にある。ポスターの掲示やチラシの配布など、今年度は、かなり力を入れてきたが、あまり結果にはつながっていない。しかし、保護者の口コミやホームページ掲載の「保護者の声」などの取組の成果があり、次年度の入園者数は増加しているので、今後も、効果的な発信の仕方について検討を重ね、実施していくたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園3歳児も預かり保育を利用できるようになったことは、保護者にとってとても大きなことであり、2年保育であっても16時まで預かってもらえるということはアピールポイントになる。預かり保育のシステムや様子がわかる写真をインスタグラムにあげていくと良いと思う。 インスタグラムではハッシュタグをどうつけるかで検索される機会が変わってくる。京都市外の方にも興味をもってもらい、入園につながることもあるのではないかと思われる所以、ハッシュタグを工夫すると良い。未就園児クラスに遊びに来ている方に、就学前施設を探すときにどんなキーワードで検索することが多いかななど聞いてみるのも良いと思う。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の持ち方、組織の充実を目指し、地域の環境や人材の活用に努める。 教育内容、未就園児教育相談や預かり保育の取組などについて、地域へのチラシ配布やポスター掲示等の協力を依頼し、乳幼児親子が集う場への積極的なアプローチにも努める。 KKPでの積極的な情報発信や共有に努め、地域の子どもたちのより良い育ちにつなげる。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。 KKP（烏丸中・上京中ブロック保幼小中一貫教育）への参加回数及び教職員との情報共有の有無。 アンケート

中間評価

<p>各種指標結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会での地域の声の聞き取りを実施。 KKPへの参加打ち合わせ含めて3回。教職員との情報共有。小中学校との公開保育・授業、研究会などへの呼びかけ。
----------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD） <p>⑧子どもは、近隣への遠足や、地域の方の保育参加を通して、京極地域に親しみを感じている。 A41% B59% C0% D0%</p>
--	---

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>学校運営協議会は、6月に1回目を実施し、本園の運営方針や年間計画など周知し、理解を得ることができた。9月に行った2回目には、評価についてのご意見も積極的にいただくことができた。理事の方の呼びかけで、地域の御靈祭の行列が園を訪問してくれたこと、その後、地域へ神輿を見に出かけたことなどから子どもたちの遊びの中に「お神輿」「獅子舞」などが生まれ、遊びが継続・充実したことは大きな成果である。</p> <p>KKPの取組においても、「あいさつ運動」や互いの公開保育・授業への参加など、昨年度より更に充実した取組になっている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>地域の祭りが復活し、それを身近に体験できたことは子どもたちにとって大きな経験であった。今後も、地域の行事などには積極的にかかわっていきたい。</p> <p>また、学校運営協議会では、毎回、積極的なご意見もいただけているので、現状を大切にしながら継続的に取り組んでいきたい。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。 ・KKPへの参加回数及び教職員との情報共有の有無。 ・アンケート

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に子どもが直接触ることは貴重な経験であると思うので、11月の文化祭での園児の発表や園児へのインタビューなど有効活用していくと良い。 ・地域のお祭体験はとても良かった。 ・幼児期に地域の文化に触ることは、今後子どもが成長していく過程においても大切な経験となる。 ・KKPのあいさつ運動での横断幕は非常に評判が良かった。このような交流の在り方も意義があると感じた。 ・学校運営協議会のメンバーに何かしてもらうなど活用を考えても良いと思う。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での地域の声の聞き取りを実施。 ・KKPでのあいさつ運動の実施や、会合への参加と情報交流。 ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD） <p>⑧子どもは、近隣への遠足や地域行事、地域の方々との交流を通して、京極地域に親しみを感じている。 A62.5% B37.5% C0% D0%</p>
--	---

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>学校運営協議会では、3月に3回目を実施し、学校評価や幼稚園の教育活動について、今回もたくさんのご意見をいただいた。（学校関係者評価に記載）</p> <p>京都御苑への複数回の遠足、賀茂川での凧揚げ、相国寺での継続したマラソンの取組など、地域の自然や施設などに日常的に出かけたり、地域の保育所・高齢者施設・大学と交流、京極文化</p>

	<p>祭に参加したりすることを通して、子どもや保護者に京極地域への愛着や親しみを感じられる機会となった。</p> <p>また、KKP で取り組んだあいさつ運動や教職員の合同研修や参観を通して、地域の子どもを共に育むための連携を行ってきた。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>地域とのつながりを積極的に配信してきたことが、アンケートの高評価につながっていると思われる所以、今後も、降園前の話やホームページなど発信に努めていく。また、コロナ禍の制限がなくなったので、運動会や生活発表会など子どもの姿が見える機会をとらえ、学校運営協議会の方にも来ていただけるようにする。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KKP での朝のあいさつ運動で、今年度、横断幕に子どものイラストを用いたことが良かったと聞いている。 ・京極文化祭は来年度も実施するので、ぜひ参加をしてほしい。今年度、御靈祭りの踊りを幼稚園で行えたことはとても良かった。今後も続けたかったのだが、来年、再来年度は土曜日・日曜日となってしまうことがとても残念である。 ・地域の高齢者の方が集まって朝の体操をしている。交流することもできるので、ぜひ一度来てみたら良いと思う。（毎週水曜日 9：30～10：00 鶴山公園にて）名刺サイズの幼稚園情報の配布もできる。 ・小学校で老人クラブによる昔遊びの交流を実施している。調整するので、幼稚園でも実施してみてはどうか。 ・商店街付近で行ったハロウィンのイベント（小学校の有志での企画）は参加も多く盛り上がった。来年度は実施前に幼稚園にも説明をしに行こうと思う。 ・地域の方との強い結びつきを大切にしてほしい。 ・他園ではあるが、幼稚園の帰りに親子で一緒に御所で遊んでいる姿を見ることがある。京極幼稚園の隣には相国寺もあるし、地域にはいろいろ親子で遊べる場所もあるので、活用していくと良いと思う。

（6）教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>教職員が心身共に健康で、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場環境づくりをめざし、自らの働き方に関する意識改革を進める。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。 ・職員朝礼の実施日を調整し、朝の準備や環境整備の時間を確保する。会議の精選、効率化を図る。 ・誰が見ても分かりやすいよう資料や物品の整理・配置について見直し、業務の充実と効率化を図る。 ・教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろうことが難しいが、日頃から声を掛け合い、一人一人が欠かせない存在として認め合い、労い合い、尊重し合い、補い合うチームとしての意識を高め、業務にあたるようにする。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や職員朝礼の実施状況。

- ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。
- ・前年度との比較検討。

中間評価

各種指標結果

教職員の勤務時間については、特定の教員に超過が見られるが、その他の教職員では特に目立った超過は見られない。年休取得も、十分であるとは言えない。職員朝礼は、現在、週3日での実施を続けているが、職員会議については、時間短縮や回数を減らす取組には難しさを感じている。

自己評価	分析（成果と課題）
	本務者の少ない小規模園においては、本務者に仕事が偏ってしまうことを避けることが難しいことが大きな課題である。年休取得については、通常保育期間での取得が難しく夏休みに取得が偏る傾向があり、原則夏休みに勤務がない職種の職員の取得確保と通常保育を安全に実施する勤務体制とのバランスが難しい。
	分析を踏まえた取組の改善
	今年度は、園支援システムのアプリ導入や校務支援員を30時間1名（昨年度は15時間2名体制であった）としたことで、業務の効率化や削減につながっているので、今後もさらに充実させていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や職員朝礼の実施状況。 ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。 ・前年度との比較検討。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の工夫と努力だけでは、これ以上は中々難しい段階にあると思う。教育の質・丁寧なかかわりを保つつつ、教職員の働き方改革を進めることは、非常に難しい。 ・実際は難しいと思うが、今後も早く帰宅できるよう工夫を続けてほしいと思う。 ・未就園児担当者など、常勤でない教職員の意見を聞く場をもつことも大切である。 ・ホームページの更新など手間のかかることがあると思うが、曜日や時間を決めて作業するなどの工夫が見られると良い。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

職員朝礼は、週3回から週2回に減らしたが、特に問題はなく、朝、準備をする時間を確保することができ、落ち着いて保育を始めることができた。職員会議については、今年度、本園1年目の教職員も複数いるため、時間短縮などは難しい。勤務時間は特定の教員に超過が見られる傾向は変わらず、年休取得状況については、最低ラインは超えているが、十分であるとは言えない。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>職員朝礼を基本火曜日と金曜日のみとしたことで、それぞれ朝の時間に余裕をもって各自の準備を進めることができるため、保育時間を充実させることにつながっている。実際、回数を減らしたことで特に問題も生じていないため、次年度もこの形で実施していきたい。職員会議の時間短縮については、来年度の異動状況によって考えたい。</p> <p>職員間の関係も良好であり、明るい職場環境となっている。勤務時間及び年休取得状況などについては、次年度の課題として残る。</p>

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今年度、30時間の校務支援員となったことは、大変効果的であった。校務支援員の活用の在り方については、今後も積極的に考えていくことで、更なる改善が期待できる。</p> <p>研修や会議の資料を期日より余裕をもって作成・配布することで、それぞれが事前に目を通して意見など考えた上で研修や会議の場に参加するようにし、時間短縮につなげたい。</p> <p>また、コロナ禍、実施できなかつた園行事ができるようになってきたが、子どもの育ちにふさわしい行事を精選し、計画する。</p>
学校 関係者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デーを実施し、その日は時間が来たら閉めてしまうようなやり方をしないとなかなかできないと思う。「休む時は休む」とか、「ちょっとくらい手を抜いても大丈夫」というくらいの気持ちでいることも大切。 ・動物の飼育はとても良いと思うが、先生方の負担は大きいと思う。心を育てる事と、負担のバランスのとり方が難しい。 ・インスタグラムやホームページなど毎日行った方が良い作業は、一日のスケジュールの中に業務の一つとして組み込んでしまうことで継続して実施できる。インスタは楽しみにしているので、皆さんの協力・理解のもと、無理のない範囲で続けてほしい。